

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
110002	XXX1110002	2	前期	国際学部国際文化学科	基礎	選択	1年
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	基礎	選択	1年
				情報文化学部情報文化学科	基礎	選択	1年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	基礎	選択	1年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	基礎	選択	1年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	基礎	必修	1年
経済学（マクロ）	安藤 潤			情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	基礎	選択	1年
		情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	基礎	選択	1年		

授業目的

この講義の目的は、高校数学を復習しながら①マクロ経済学の重要用語の概念を理解すること、②マクロ経済学の中から国民所理論の基礎を学ぶこと、③深刻な不況時における財政政策と金融政策の役割を、講義内容だけでなく練習問題を通じても理解すること、そしてその結果、情報文化学部と国際学部のディプロマ・ポリシーの一部を満たすにあるとである。

各回毎の授業内容

<div>第1回</div> <div>【授】イントロダクション</div> <div>【前・後】【予・復習に4時間】この科目の指定図書を図書館で2、3冊読んでおくことが望ましい。</div> <div>第2回</div> <div>【授】国民所得①：企業の生産活動</div> <div>【前・後】【予・復習に4時間】教科書第1章1－1</div> <div>第3回</div> <div>【授】国民所得②：国内総生産</div> <div>【前・後】【予・復習に4時間】教科書第1章1－2</div> <div>第4回</div> <div>【授】国民所得③：国民所得、名目と実質</div> <div>【前・後】【予・復習に4時間】教科書第1章1－3、1－4</div> <div>第5回</div> <div>【授】国民所得水準の決定①：経済部門と総需要、消費需要の決定</div> <div>【前・後】【予・復習に4時間】教科書第2章2－1、2－2</div> <div>第6回</div> <div>【授】国民所得水準の決定②：投資需要の決定</div> <div>【前・後】【予・復習に4時間】教科書第2章2－3</div> <div>第7回</div> <div>【授】国民所得水準の決定③：二部門モデルによる均衡国民所得の決定</div> <div>【前・後】【予・復習に4時間】教科書第2章2－4</div> <div>第8回</div> <div>【授】国民所得水準の決定④：インフレ・ギャップとデフレ・ギャップ、乗数理論と投資乗数</div> <div>【前・後】【予・復習に4時間】教科書第2章2－5、2－6</div>	<div>第9回</div> <div>【授】国民所得水準の決定⑤：三部門モデルによる均衡国民所得の決定</div> <div>【前・後】【予・復習に4時間】教科書第2章2－7</div> <div>第10回</div> <div>【授】貨幣市場①：貨幣の定義、貨幣供給</div> <div>【前・後】【予・復習に4時間】教科書第3章3－1、3－2</div> <div>第11回</div> <div>【授】貨幣市場②：貨幣需要</div> <div>【前・後】【予・復習に4時間】教科書第3章3－3</div> <div>第12回</div> <div>【授】貨幣市場③：貨幣市場の均衡</div> <div>【前・後】【予・復習に4時間】教科書第3章3－4</div> <div>第13回</div> <div>【授】IS－LM分析①：財市場の均衡</div> <div>【前・後】【予・復習に4時間】教科書第4章4－1</div> <div>第14回</div> <div>【授】IS－LM分析②：貨幣市場の均衡</div> <div>【前・後】【予・復習に4時間】教科書第4章4－2</div> <div>第15回</div> <div>【授】IS－LM分析③：財市場と貨幣市場の同時均衡、財政政策・金融政策の効果</div> <div>【前・後】【予・復習に4時間】教科書第4章4－3、4－4</div> <div>第16回</div> <div>【授】定期試験</div> <div>【前・後】【予・復習に4時間】練習問題などでよく勉強して臨むこと。</div>
---	---

成績評価方法

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	強調・指導力	発表・表現	その他	評価割合(%)
定期試験							100
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加							
成果発表（口頭・実技）							
演習							
その他							

成績は定期試験でのみ判定する。判定基準は本学の基準に従う。合格者数、平均点などはポータルや掲示にて公表し、講評を加える。

教科書参考書

青木孝子・安藤潤・鍵田亨・塚原康博『入門現代経済学要論 第2版』白桃書房（第1～4章）、2,381円（税別）

受講に当たっての留意事項

携帯電話・スマートフォンなどはカバンなどにしまっておくこと（机の上には出さないこと）。高校数学の基礎知識が大前提となる。具体的には1次関数、直線のグラフ、等比数列の総和の公式などである。これら数学を多用して抽象的な基礎理論の授業が展開されるので、数学が大の苦手と言う人は、もちろん履修するのは自由だが、慎重に履修するかどうかを決めること。

教科書は必ず購入し、授業の際に必ず持ってくる。スマートフォン・携帯電話・PHSの類は必ず電源を切ること。飲食禁止。以上のことを守れない学生は退学を願うこともある。また、教員の注意にもかかわらず繰り返し返す場合にはその場で定期試験受験資格をはく奪することもある。

この授業を半期受講したからといってすぐに初級レベルのマクロ経済学すべてを理解できるようになるほど甘くはない。ただし資格試験は最終的に合格できればいいのだから、公務員試験などでマクロ経済学が必須の学生は、半期で理解できようができまいがこの授業を機に学習を継続し、一定レベルに達したらレベルを上げていくこと。

学習到達目標

国民所得決定理論の基礎を理解し、この授業では扱うことのできない労働市場のマクロ経済分析、総需要・総供給分析に進むための基礎を作ること。公務員試験・地方上級への入口に立つこと。

JABEE